

2025年度日系社会研修 コース概要

NO.	43
所管センター	横浜
分野	医療・介護・高齢化対策
研修コース名（日）	地域保健医療福祉－病院から地域へ多職種によるチーム医療福祉
受入人数	8
受入時期	下半期
来日日	2025年10月5日（日）
帰国日	2025年11月5日（火）
提案団体（日）	学校法人佐久学園
提案団体 ウェブサイトアドレス	https://www.saku.ac.jp
研修員必要資格	1. 医療（医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等） 2. 保健（高齢者のデイケアや健康増進プログラムのマネージャー等で職種は問わない） 3. 福祉（ソーシャルワーカー、高齢者施設のマネージャー等で職種は問わない） 4. また、日系関連団体の施設等を利用して、高齢者が集まるサロンやデイサービス等を企画、運営する意欲のある人（資格は問わない） 5. 老年学を学ぶ大学院生
研修員に必要な 実務経験年数	実務経験3年以上
日本語能力（選択） ※日本語能力試験認定の目安参照	N4
英語能力（選択）	英語での資料読解、発表、レポート作成可
研修目標	研修員が、病院から地域への切れ目のないケアサービスおよび多職種の協働によるチーム医療と地域包括ケアシステムの実践を学び、自国の高齢者ケアの改善に資する人材となる。
期待される成果 （習得する技術）	1. 日本の高齢者医療、在宅ケアの歴史的背景、介護の人材育成、認知症ケア等の基本的な講義を受け現在に至る地域医療の現状を理解し、自国の高齢者対策へのヒントを得る。 2. 日本の都心部と農村部で展開されている救急病院－リハビリテーション病院および中間施設である老人保健施設をへて訪問診療・訪問看護・訪問リハビリテーション・訪問介護へと継続されている流れと実際を理解する。 3. 自治体（佐久市）と保健医療福祉機関との協力体制を理解する。 4. 地域住民の健康意識を高める継続的な取り組みについて理解する。 5. 高齢者施設の運営、管理について理解する。 6. 高齢者用住宅の利便性について理解する。 7. 高齢者の持てる力や機能を生かせるケアについて理解する。 8. 介護予防の知識・技術、実践方法について理解する。 9. 高齢者施設での看取り、自宅での看取りの実際について学び、高齢者の看取りの在り方について考察する。 10. 認知症ケアに有効な地域づくりについて理解する。
研修計画 （内容）	研修計画（内容）： 日程案により、講義、演習、視察により目的を達成する。 1 週間：JICA横浜・東京研修－研修員のJob Reportの発表、総論的な講義（高齢化を取り巻く社会・経済、熱帯地域の疾病予防、大都市における病院研修 3 週間：佐久市を中心とする研修（佐久大学、JA佐久総合病院、JA鹿教湯リハビリテーション病院、佐久市立浅間総合病院、他高齢者ケア施設）、参加者の職種により、訪問診療・看護・リハビリテーション、介護の基本技術、シャドウワーニング等を組み入れる 2日間：JICA横浜－アクションプランの発表、評価会、閉講式

本研修実施の意義 中南米日系社会への裨益効果	中南米諸国では、医療、保健、福祉が縦割りサービスシステムで実施されている。その結果、前述の課題が挙げられている。福祉と医療を統合した横断的で継続的なケアへの移行は、先に高齢社会に入った日本が経験してきたことである。現在、日本では高齢者の増加に向けて2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立した生活の支援を目的として可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を推進している。 研修員からの聞き取りによると、ブラジルの移住地では、若者は農業以外の職を求めて都市へ移住し、入植地では高齢化、過疎化が進んでおり、地域の人々の絆を再構築する地域活動、及び生活習慣病を予防する健康意識を高める活動が必要となっている。研修員は、日系社会に勤務している者、日系社会でボランティアをやっている者など、日系社会への介入の度合いに差があるが、過去2年間に帰国した研修員らは、高齢の日系人を中心としつつ、非日系人を含む地域活動を開始している。本邦研修を終了した研修員がこれらの活動に参加することにより、高齢の日系人に生きる希望を与える活動になると考える。 本邦研修では、市と病院やNGOとの連携による健康増進活動、既存の建物を高齢者施設として再活用したり、近隣の住民によるボランティア送迎サービスを実施している状況を視察し、社会資源に限りがある中南米諸国にも取り入れやすい現実的な方策を見聞する。 また、2020年2月以降のコロナ禍において、ブラジルではネット環境の開発が進み多くの高齢者が自宅で健康増進体操を実施したり、健康相談をするなどの事例が、2021年10月、webinar program で発表された。広大な国、ブラジルの強みであり、日本の地域活動において参考になる活動である。研修員が日本から学ぶだけでなく相互に効果が期待できる研修事業である。
応募希望者への特記事項	・来日前に、自分の所属組織の概要、強み、弱み把握したうえで参加すること。 ・来日前に、地域医療、高齢者対策について国の政策、州の政策、市の政策を把握しておくこと。